

お手数ですが、お手元の通信インタフェースユーザズマニュアル IM701450-17(CD-ROM) を次のように変更してお使いください。

次のように変更してください。

## ■ 5-6 ページ

: IMAGE:SAVE:DRIVE 画面イメージデータの保存ファイルのストレージメディアの設定

## ■ 5-67 ページ



## ■ 5-68 ページ

: IMAGE:SAVE?

.....  
 例 : IMAGE:SAVE? -> : IMAGE:SAVE:ANAMING 0;  
 NAME "DISP 1"

: IMAGE:SAVE:DRIVE

.....  
 構文 : IMAGE:SAVE:DRIVE {FLOPPY|ZIP|PCCard  
 [, <Nrf>] | SCSI, <Nrf> [, <Nrf>] | NETWork |  
 USB, <Nrf> [, <Nrf>] [, <Nrf>]}  
 .....  
 SCSI の 2 番目の <Nrf> = パーティション (0 ~ 4)  
 USB の最初の <Nrf> = USB アドレス  
 USB の 2 番目の <Nrf> = パーティション (0 ~ 3)、  
 または LUN (論理ユニット番号: 0 ~ 3)  
 USB の 3 番目の <Nrf> = 2 番目で LUN を指定し  
 た時のパーティション (0 ~ 3)  
 例 : IMAGE:SAVE:DRIVE FLOPPY  
 解説 .....  
 ・「USB」の場合の 2、3 番目の <Nrf> は、パーティ  
 ションまたは LUN で区切られていなければ省略  
 可能です。  
 ・USB ストレージメディアへの保存は、ファーム  
 ウェアバージョンが 2.07 以降で、しかも、  
 DL7400 本体のオーバービュー画面で「USB Mass  
 Strage: Yes」と表示されている機種だけが対応  
 しています。

## ■ 5-93 ページ

: MEASure: {CHANnel<x> | MATH<x>}: <パラ  
 メータ>: VALue?

.....  
 構文 : MEASure: {CHANnel<x> | MATH<x>}: <パラメ  
 タ>: VALue? [{Nrf}] [, STATus]  
 : MEASure: {CHANnel<x> | MATH<x>}: <パラメ  
 タ>: VALue? [STATus]  
 .....  
 解説 .....  
 ・周期統計処理以外の場合  
 .....

・周期統計処理後の場合  
 .....

・STATUS はファームウェアバージョン 2.54 以降  
 の製品で適用できます。STATUS は省略可能です。  
 省略した場合は、パラメータが FALL、NWIDth、  
 PERiod、PWIDth、および RISE で、しかもそ  
 のパラメータの測定値が、実行されているサン  
 プルレート以下の状態のとき、負の符号を付け  
 た値が返されます。  
 STATUS を付けた場合は、「LOW RESOL」が返さ  
 れます。

## ■ 5-141 ページ

: WAVEform: FORMat

.....  
 構文 : WAVEform: FORMat {ASCIi | BYTE | WORD |  
 RBYTe}  
 : WAVEform: FORMat?  
 解説 .....  
 ・このフォーマットの設定による違いは、  
 「: WAVEform: SEND?」の解説を参照してください。  
 ・「RBYTe」を選択した場合は、「: WAVEform:  
 TRAcE」の設定を <Nrf> (Channel) にしてく  
 ださい。パラメータ RBYTe は、ファームウェア  
 バージョン 2.53 以降の製品に適用できます。

## ■ 5-142 ページ

: WAVEform: SEND?

.....  
 解説 .....  
 (3) 「RBYTe」にしたとき  
 <ブロックデータ> の形式で返されます。  
 「WAVEform: TRAcE」の設定が、  
 <Nrf> (Channel) のときだけ有効です。  
 次の式で、換算できます。  

$$\text{電圧 (演算値)} = [\text{レンジ} \times \{(\text{データ}) - \text{Position}\} \div \text{Division}^*] + \text{オフセット}$$

$$* \text{Division} = 24$$

$$\text{Position} = : \text{WAVEform: POSition? コマンドの返値}$$
 パラメータ RBYTe は、ファームウェアバージョ  
 ン 2.53 以降の製品に適用できます。  
 ・<Nrf> は省略可能です。.....

## 次のコマンドを追加してください。

### ■ 5-6 ページ

:HISTory:ZONE:EDIT<x>:CENTer  
:HISTory:ZONE:EDIT<x>:LVERtex  
:HISTory:ZONE:EDIT<x>:RVERtex

ヒストリサーチ (ゾーン) のゾーンの左右頂点縦位置の設定 / 問い合わせ  
ヒストリサーチ (ゾーン) のゾーンの左頂点横位置の設定 / 問い合わせ  
ヒストリサーチ (ゾーン) のゾーンの右頂点横位置の設定 / 問い合わせ

### ■ 5-15 ページ

:WAVEform:POSition?

「:WAVEform:FORMat」で「RBYTe」を指定した場合の、電圧に換算するとき  
に使用する垂直軸ポジションの問い合わせ

### ■ 5-65 ページ

#### :HISTory:ZONE:EDIT<x>:CENTer

機能 ヒストリサーチ (ゾーン) のゾーンの左右頂点縦位置を設定 / 問い合わせします。

構文 :HISTory:ZONE:EDIT<x>:CENTer {<NRf>}  
:HISTory:ZONE:EDIT<x>:CENTer?  
<x> = 1 ~ 4  
<NRf> = 0.0 ~ 100.0(%、0.1%ステップ)

例 :HISTORY:ZONE:EDIT1:CENTER 50.0  
:HISTORY:ZONE:EDIT1:CENTER?  
-> :HISTORY:ZONE:EDIT1:CENTER 50.0

解説 ファームウェアバージョン 2.40 以降の製品に適用できます。

#### :HISTory:ZONE:EDIT<x>:LVERtex

機能 ヒストリサーチ (ゾーン) のゾーンの左頂点横位置を設定 / 問い合わせします。

構文 :HISTory:ZONE:EDIT<x>:LVERtex {<NRf>}  
:HISTory:ZONE:EDIT<x>:LVERtex?  
<x> = 1 ~ 4  
<NRf> = -10 ~ 0div((10div/ 表示レコード長) ステップ)

例 :HISTORY:ZONE:EDIT1:LVERTEX -1.0000000  
:HISTORY:ZONE:EDIT1:LVERTEX?  
-> :HISTORY:ZONE:EDIT1:  
LVERTEX -1.0000000

解説 ファームウェアバージョン 2.40 以降の製品に適用できます。

#### :HISTory:ZONE:EDIT<x>:RVERtex

機能 ヒストリサーチ (ゾーン) のゾーンの右頂点横位置を設定 / 問い合わせします。

構文 :HISTory:ZONE:EDIT<x>:RVERtex  
:HISTory:ZONE:EDIT<x>:RVERtex?  
<x> = 1 ~ 4  
<NRf> = 0 ~ 10div((10div/ 表示レコード長) ステップ)

例 :HISTORY:ZONE:EDIT1:RVERTEX 1.0000000  
:HISTORY:ZONE:EDIT1:RVERTEX?  
-> :HISTORY:ZONE:EDIT1:  
RVERTEX 1.0000000

解説 ファームウェアバージョン 2.40 以降の製品に適用できます。

### ■ 5-141 ページ

#### :WAVEform:POSition?

機能 「:WAVEform:FORMat」で「RBYTe」を指定した場合の、電圧に換算するとき使用する垂直軸ポジションを問い合わせます。

構文 :WAVEform:POSition?

例 :WAVEFORM:POSITION? -> :WAVEFORM:  
POSITION 96

解説 ファームウェアバージョン 2.53 以降の製品に適用できます。

### ■ 6-2 ページ 「各レジスタの書き込み / 読み出し」

たとえば、標準イベントイネーブルレジスタの各ビットを 1 または 0 にするには、\*ESE コマンドを使います。また、標準イベントイネーブルレジスタの各ビットが 1 であるか 0 であるかを確認するには、\*ESE? コマンドを使います。これらの各コマンドについては、第 5 章で詳しく説明しています。